

年収150万円で暮らす法

吉田 清彦

仏法にも「喜捨」という教
えがある。

そういつわけて、私が身
につけている衣服の半分く
らいは人さまからのもらい
ものである。衣服だけにな
く、靴やバッグも、右に同
じである。

実を言うと、理由はもう
一つある。
十三年ほど前に、一度結
婚したことがあるが、その
時の相手がとてもファッシ
ョンにうるさい人で、それ
まで身につけていた衣服の
着用を禁じられた。その間
わずか一年の間だったが、
給料のほとんどを衣服の購
入に充てさせられてしまっ
た。まるで「着せ替え人形”
といったありさまで、当時
は随分抵抗を感じたが、今

となつてみれば、その時の
「財産」が大いに役立って
いることになる。

⑤

ところで、二年ほど前、
胃潰瘍(かいよう)を患っ
た折、医者から煙草(たば
こ)をやめるように言われ
た。「煙草をやめると原稿
が書けなくて、仕事になら
ない」と抗弁すると、それ
なら牛乳を飲めと勧めら
れ、その時から、毎日一〇
〇cc近く飲むようになった。
お陰さまで潰瘍の方はす
っかり良くなったのだが、
体重がまたたく間に増えて
きてしまった。それまで、
だいたい五十六―五十八キ
を保っていたのが、わずか

数大戸の間に六十二キまで
になってしまった。その分
ウエストも太くなったの
で、はけるズボンが次第に
少なくなってくる。あわて
て減量にはげんだが、六十
キ以下に落とすことは、も
う無理なよつである。

仕方なく寸法直しに出す
ことにしたが、この際つい
でにと、タンスの奥に眠っ
ていたものを全部まとめて
出した。なかには二十代に
購入したものもあったが、
三〜五キ広くなるだけです
べてOK。お陰で、一度に
数十本のズボン持ちになっ
てしまった。一本につき千
二百円かかったが、これだ
と十年ほどはズボンを買
わなくて済みそうである。

半分はもらいもの

ボロは着ても、心はニシキ

私が衣料費をほとんど使
わなくてすむ理由は、さら
にもう一つある。
常日ごろ着古したものは
かりを身に着けていると、
当人は別段気にしていない
のだが、周りの人が(おお
むね女性だが)見るに見か
ねて、新しいものを買って
くれるのである。小さい時
から、親戚(しんせき)の
人からの衣類のもらいもの
には慣れているので、こう
いう場合、別に卑屈にもな
らず、ありがたくちょうだ
いする。

私は浄土真宗の寺の生ま
れなのだが、こういふ時は、
貧乏人が裕福な人から金品
の施しを受けるのは当然の
権利で、堂々と受けとると
いうイスラム教徒に早変わ
りするのである。もちろん、



鳥肉と野菜のシチューが煮上がるま
で、鉄げたをはいて台所で足腰の鍛
錬。足元の階に響かないように足下
にスリッパを敷く (神戸市の自宅)

このところの景気後退
で、高級衣料が売れなくな
り、紳士物衣料の激売ショ
ップが大はやり、百貨店で
さえ二〜三万円のスーツを
売り出している。今までの
値段は一体何だったのかと
疑いたくもなるが、リサイ
クルやリフォームを利用す
れば、衣料費は随分安くす
ることができるはず。

時折、リサイクルショッ
プやバザーなどをのぞくこ
とがあるが、女物に比べて
男物が極端に少ないのは、
とても残念である。

(フリーライター)